

※※印：2009年11月改訂(第7版、指定医薬品の廃止に伴う改訂)
 ※印：2009年 1月改訂

日本標準商品分類番号
874299

貯 法：室温保存
 使用期限：外装に表示の使用期限内に使用すること。
 取扱い上の注意：「取扱い上の注意」の項参照
 規制区分：処方せん医薬品
 (注意－医師等の処方せんにより使用すること)

承認番号	(62AM)1180
薬価収載	1988年 7月
販売開始	1988年10月
再評価結果	1989年12月

抗悪性腫瘍剤

カルボクリン®末

CARBOCRIN

【組成・性状】

組 成	1g中： たん白質と結合した多糖類で、かわらたけの菌糸体より得られたもの……………1g
性 状	かっ色又はかっ色を帯びた粉末で、わずかに特異なおいがあり、味はない

【効能・効果】

胃癌(手術例)患者及び結腸・直腸癌(治癒切除例)患者における化学療法との併用による生存期間の延長
 小細胞肺癌に対する化学療法等との併用による奏効期間の延長

【用法・用量】

1日3gを1～3回に分服する。

【使用上の注意】

1 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻 度 不 明
消化器	下痢、悪心・嘔気、嘔吐、食欲不振、胃部不快感
皮膚	発疹

2 高齢者への投与

慎重に投与すること。[一般に高齢者では生理機能が低下している]

【薬効薬理】¹⁾

1 作用機序

担癌マウスにおける遅延型皮膚反応及び抗体産生の低下を抑制した。また担癌個体由来の免疫抑制因子を投与されたマウスにおける抗体産生細胞の減少を抑制した。

本剤は、担癌により低下した免疫能の回復作用を有すると考えられる。

2 抗腫瘍効果

マウスSarcoma-180、ラットAH-13腹水肝癌、マウスLewis肺癌、マウスAdenocarcinoma755等の実験腫瘍において、腫瘍増殖抑制効果や延命効果を認めた。

【有効成分に関する理化学的知見】

性 状：たん白質と結合した多糖類で、かわらたけの菌糸体より得られたものは、かっ色又はかっ色を帯びた粉末で、わずかに特異なおいがあり、味はない。メタノール、ピリジン、クロロホルム、ベンゼン又はヘキサンにほとんど溶けない。1gに水100mLを加えて溶かすとき、液はかっ色で、わずかな濁りがある。水溶液(1→100)のpHは6.6～7.2である。

融 点：約120℃から徐々に黒変し、分解する。

【取扱い上の注意】²⁾

安定性試験結果の概要

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、カルボクリン末は通常の市場流通下において安定であることが推測された。

※【包 装】

カルボクリン末
 分包：1g×120包

【主要文献】

- 1) 大洋薬品工業株式会社資料(薬効薬理試験)
- 2) 大洋薬品工業株式会社資料(安定性試験)

【文献請求先】

主要文献欄に記載の文献・社内資料は下記にご請求下さい。
 大洋薬品工業株式会社 タイヨ-DIセンター
 〒453-0801 名古屋市中村区太閤一丁目24番11号
 TEL 0120-080-601 FAX 052-459-2853

